



平成24年1月16日  
尾張旭市立東中学校

## 校長室から

平成23年度  
第10号

### 新年 明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えました。本年もよろしくお祈りします。  
「1年の計は元旦にあり」と言います。また、別ないい方ですが、「初心忘るべからず」という教訓もあります。どちらにしても、初心を大切にして、いいスタートを切ってほしいという意味が込められています。

みなさん、それぞれどんな計画を立てましたか？特に3年生にとっては、進路決定が目前になってきましたが準備はどうでしょうか。残された日数から逆算して、計画的に進めてほしいと思います。

1年生、2年生にとっても、新しい年のはじめに気持ちを整えて、次の学年への準備に取り組んでほしいと願っています。

### 知恵と知識について

始業式に話したことですが、ドイツの天才少年(当時)ガウスという人のことです。ある日、担当の先生が、黒板に、 $1 + 2 + \dots + 100 =$  という問題を書きました。それを見たガウス少年は、先生が問題を書き終えてすぐに、5050と答えたそうです。

どういう考え方であったかと言うと、1から100までを逆にして、

$$\begin{array}{r} 1 + 2 + \dots + 100 = \\ 100 + 99 + \dots + 1 = \\ \hline 101 + 101 + \dots + 101 = \end{array}$$

上のように、考えると、101が100個ですが、実際には、その半分でのよいので  $101 \times 50 = 5050$  という答えになります。

すばらしい知恵というかアイデアだと思います。こうしたやり方を知ると、何かに使ってみたくくなります。例えば、100から200までを足すとどうなるのかとか、

$1 + 2 + \dots + 10 = 55$   
ですが、100までは上の考え方で計算すると、

$1 + 2 + \dots + 100 = 5050$  さらに、  
 $1 + 2 + \dots + 1000 = 500500$  となります。間の「0」が単純に  
言えば、増えていることにも気づくと思います。

はじめは、先生に教えていただいたり、友達の考えを参考にしたりしながら、少しずつ学習していくわけですが、どんな形であっても、いったん身についた計算の仕方(かけ算の九九でも同様です。)は、次の問題を解いていくときの頼りになる手がかかり、大きな知識となります。

他にも、コロンブスの卵の話も有名ですね。卵を机の上に立たせることはできるかという話の中で、コロンブスは、ゆで卵の下の方の空気がたまっている部分の殻を破って机に立てたと言います。毎日の生活の中で、いろんな情報や考え方にふれると思います。読書をしたり、インターネットを活用したり、勉強の機会はたくさんあります。いろんな知恵をたくさん身につけてほしいと願っています。

お互いによい年にしたいですね。そして、ますます、すばらしい東中学校にしていってほしいと思います。